

(別紙)

2023年度(令和5年度)幼稚園評価自己評価表

最終更新日 2023年(令和5年)3月21日

園番39 福山市立 道上 幼稚園

1 幼稚園教育目標

心豊かで、たくましく生きる子どもを育てる

2 目指す自園の幼稚園像(ビジョン)

- ・明るく楽しい雰囲気幼稚園
- ・心の通い合う幼稚園
- ・遊びが充実する幼稚園
- ・保護者や地域から信頼され愛される幼稚園

3 目指す幼児像

- ・自分で考え行動する子ども
- ・夢中で遊ぶ子ども
- ・よく考える子ども
- ・最後までやりぬく子ども
- ・友だちとよく遊ぶ子ども

4 自園の現状分析(地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など)

本園は、里山の中にあるが、自然にかかわって遊べる場はあまりなく、アパートや戸建て住宅も増え、急速に都市化の様相をみせている。学区内に公園などの施設がほとんどなく、のびやかに育つ環境が十分とはいえず、家庭内で遊ぶことが多い実態が伺える。

園児は好奇心旺盛で興味・関心をもっていろいろなことに意欲的に関わり、自分のやりたい遊びを見つけたりつくったりしながら楽しんでいる。しかし、自分の思いで行動したり友だちの思いを感じにくい姿や受けとめたりしにくい姿もある。

家庭では、核家族化・少子化・近所付き合いの希薄化などにより、様々な人と関わりながら遊ぶ機会も少なく、自分の思いを伝えなくても周りの大人に察してもらえらるため、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを聞いて受け入れたり察したりすることが難しい面も見られる。

そこで、充実した遊びや生活のなかで、友だちと思いを伝え合ったり共感しあったりしながら主体的にあそびを楽しむ幼児を育てたいと考えこの目標を設定した。子どもが好きな遊びを充実するなかで、思いを伝え合い、受け止め合い、思いを共感するなど様々な経験を通し、自己を十分に発揮するなかで主体性を発揮できるような保育環境を整えていく。

また、子どもの遊びの質を深めていくことが教師の質を高めることにもつながるため、遊びの振り返りのあり方を探り、子どもが主体的に遊び、遊びのなかで様々な学びを得ることができるよう、子どもの見取り・職員のかかわり方など、全職員で共通理解を図りながら実践していきたい。

5 今年度の重点目標と設定理由(ビジョン実現のために)

重点目標	設定理由
遊びの充実をめざす 一個に応じた教師の援助の在り方一	遊びを通して幼児は様々な学びを獲得し、遊びながら考える力、自分で行動する力、人とかかわる力が育つために遊びの充実は大切である。遊びの充実のためには子どもの育ちを読み取り、教師の援助や環境構成のあり方を探り工夫することで、自己肯定感をもち主体的に活動する姿に繋がっていくのではないかと考え、本目標を設定した。

(別紙)

6 目標・方策・評価

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果	
					○=成果や課題	◎=改善のための方策
生きる力の基礎	主体的に行動する力や人とかかわる力を育む。	○登園時に「おはよう」の挨拶ができるようになる。 年少：相手の顔を見て挨拶する。 年長：友だちや先生と気持ちよく挨拶をする。(80%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 出会ったすべての子に笑顔で挨拶をする。 様々な人と気持ちよく挨拶ができるように教師がモデルになる。 様子を保護者に伝え、家族とともに取り組む。 	B	○朝の会や帰りの会ではみんなでしっかり挨拶ができているが、登園時には恥ずかしがったりこだわりから声が出にくい子もいた。 ◎進んで挨拶ができた時にはしっかり認めたり、挨拶交わせて気持ちが良かったことを伝え挨拶の大切さを知らせていく。	
		○一人ひとりの幼児が自己充実して遊びや生活をする。 年少：好きな遊びを見つけて楽しむ。 年長：自分の思いを出したり友だちの思いを受けとめたりしながら遊びを進める。(80%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた自己充実の姿を日々、話し合い、教師の関わりを見直し共有し取り組む。 支援の必要な幼児が、集団のなかで自己発揮して遊ぶようになるための支援の在り方を探る。 	B	○どの子も自分の好きな遊び、やりたい遊びができ、楽しむようになった。自分らしさを発揮して安心して生活している姿がある。 ○自主公開研に向けて遊びの充実について教師の関わりや環境構成の見直しなどに取り組んだことで、主体的な遊びにつながっていった。 ◎遊びの環境の工夫をすることで子ども同士が主体的にかかわりあい遊びを広げていけるよう日々の振り返りを大切にする。	
教師の役割	一人一人の幼児理解に基づく幼児教育を実践する。	○幼児理解や発達を捉えた援助のあり方を工夫する教師を目指す。(80%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が主体的に活動するための環境構成やよく考え、相手の思いや周囲の状況に気づくようなことばかけの工夫をする。 	B	○週日案やポートフォリオの記録を丁寧にとっていくことで子どもの姿から環境構成の再構成をしていくことができた。幼児理解を深めるために写真を使つての振り返りをしたことは子ども理解につながった。 ◎日々の子どものかかわりや姿を職員間で十分議論するなどエピソード研修を計画的に見通しをもって行い充実を図る。	
信頼される幼稚園	保護者や地域との信頼関係を築き幼児教育への理解を深める。	○月に1回以上子どもの育ちについてや子育ての悩みについてなど全保護者と話す場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の生活の姿を伝えることで安心感につなげていく。 保護者に声かけをしながら、気楽に話せる関係づくりをする。 	B	○登降園時に日々の子どもの姿や育ちを共有していった。 ○ポートフォリオで子どもの育ちを交流できたことはよかった。 ◎いろいろな方法を模索し、なんでも話せる関係づくりをする。	
		○保護者アンケートによる満足度を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿がわかるたよりの発行をする。 ホームページの更新を年10回以上行い、園の教育内容を知らせる。 	A	○クラスだよりを月2回発行し、ホームページの更新も10回以上行った。 ○普段の様子をわかりやすく写真で掲載したり、カラー刷りにしたことで分かりやすい使いとなった。	